

# 学位論文審査の要旨

学位申請者	麻生 奈央子 2019年3月 単位修得退学			論文題目	女性における実利主義的恋愛観に関する研究 ：“ロマンティック幻想”概念に基づく検討
審査委員	主 査：	坂元 章	教 授	インターネット 公表	学位論文の全文公表の可否： <div>否</div>
	副 査：	菅原 ますみ	教 授		「否」の場合の理由
	副 査：	石口 彰	教 授		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員：	大森 美香	教 授		<input type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員：	石丸 径一郎	准教授		<input type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博 士	(社会科学)			<input checked="" type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
(英語名)	(Ph. D. in Psychology)				<input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている
					※本学学位規則に基づく学位論文全文の インターネット公表について

## 学位論文審査・内容の要旨

社会心理学の分野では、女性が持ちうる恋愛観の一つとして、ロマンティック幻想(Romantic Fantasy; RF)という概念が提示されている(Rudman & Heppen, 2003)。これは、ファンタジー物語の王子様のように、自分を庇護してくれる援助者の役割をパートナーに求める幻想であり、実利志向的な恋愛観である。本論文の研究は、この測定や関連変数などについて、9個の実験研究や調査研究を行って検討したものである。

本論文の研究を通して以下のことが示唆された。

- 1) ロマンティック幻想の測定については、従来の現実RF(現在のパートナーを王子様のように捉えているかを質問して測定する)や潜在RF(潜在連合テストによりパートナーと王子様の連合を測定する)よりも、理想RF(パートナーが王子様のものであってほしいかを質問する)を測定するほうが適切と見られる。
- 2) 理想RFが高い女性は、(a)パートナーに高い社会経済的地位を望み、その地位を通じて自己の価値を高めたいと考えている、(b)現代の社会経済的地位におけるジェンダー間格差は容認されるべきと捉えている、(c)現在のパートナーとの関係に満足していない、などの傾向がある。
- 3) 理想RFは、メディアとの接触や親の養育行動によって影響を受けうる。それゆえ、今後の社会環境の変化により、理想RFのあり様が変化する可能性がある。

この論文に対して、審査委員会は、令和2年4月20日(月)、同年6月15日(月)、同年8月24日(月)の3回の審査会を行った。審査の過程においては、文献レビュー・説明・考察などの不足や、論旨の捉えにくさなどに関する問題点が指摘された。申請者は、それに対して修正論文を提出し、審査委員会はそれぞれの指摘に対して適切な修正が行われたと判定した。また、8月24日の公開発表会における発表や質問に対する回答についても十分なものとされた。

審査委員会は、本論文の研究が提示した上記の知見の意義や論文のまとまりとともに、本論文に独創性の高い内容が含まれていることなどを評価し、論文審査、最終試験の結果を合格とした。お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科の学位、博士(社会科学)、Ph. D. in Psychologyにふさわしいものと判断した。